

加古川町本町「ニッケ社宅界限」



「ニッケ社宅」として市民のみなさんがよくご存じの「加古川日本毛織社宅建築群」は、1899(明治32)年、日本毛織加古川工場操業にあわせて造成、児童公園を中心に明治末～昭和初に建造された木造建築群です。

児童公園東側の洋風建築は、生産技術確立のために訪れた「お雇い外国人」住居として1911(明治44)年に建築された、加古川市内に現存する唯一の「異人館」です。現在は「ニッケ社宅倶楽部」という集会場として用いられているそうです。



長屋風和風建築の社宅は板塀で囲まれ、未舗装の道路とともに、昭和前半の風情。映画やTVドラマのロケ地になりました(「少年H」・「マッサン」など。本稿第6号「映画撮影の町 加古川」参照)。



社宅付近の国道2号線(西行き一方通行)をくぐる通路は、かつてニッケ加古川工場と関連施設を結ぶトロッコ列車の通路であったということです。



近年は、社宅近隣にニッケ関係の現代的な保育園や介護施設が建てられ、社宅群と対比をなすとともに、再び地域の人々が集う場ともなっています。



社宅以外にも、1935(昭和10)年に公会堂として建設され、1971(昭和46)年から図書館となった「加古川市立加古川図書館」など、この界限では「昭和」の雰囲気を楽しめます。本を借りがてら付近を散策してみてもは？



ぶらり加古川 第59号
平成30年2月